



日本共産党 池 浜 あけみ 18  
人権としての生活保護を

**問**生活保護を受けることは「恥」ではなく憲法に保障された権利だが、必要な人が受けられていない。制度周知について市の考えは。

**答**福祉部長 改訂作業中の「生活保護のしおり」には、生活保護は誰もが受給できる権利である旨を明記している。生活困窮となり相談した人が、申請を控えることのない

よう、相談の際の対応には配慮している。

また、併せてホームページへの掲載、窓口等に設置するなど、市民に広く生活保護制度を理解してもらえよう努めていきたいと考えている。



**問**人権としての生活保護観光客と住民の共存



日本共産党 長 田 雅 基 19  
子供の居場所づくり推進を

**問**貧困家庭の子どもは孤立してしまう傾向がある。困難な状況の子どもへの支援として、子どもの居場所づくりを推進する考えは。

**答**子ども未来部長 本来、子どもたちは、安心していられる居場所で信頼できる大人や友人と関わりを持つことで、コミュニケーション能力や自己肯定感が育まれていくもの

と認識している。

安心して過ごせる居場所づくりについては、子どもの健全な成長を促す面から必要性が高いものと考えられることから、子どもの貧困対策の一環として、取り組んでいく必要があるものとして認識している。

**問**子どもの貧困をなくす  
**問**伊佐沼周辺整備



日本共産党 今 野 英 子 20  
寺尾での住民説明会開催を

**問**台風第21号により寺尾地域で水害が発生してから1年半経過。被災者に対して市の取り組みなど住民説明会を行うべきと考えるが、市長の見解は。

**答**市長 被災した護岸に係る災害復旧工事の状況のお知らせや、管理用監視カメラ画像の暫定公開、川越市内水対応タイムライン（寺尾地区）の公開など、市の取り組みを実

施する機会を捉え、回覧やホームページを通して最新の情報が伝わるよう周知や説明を行ってきた。

現在、説明会を行う考えはないが、今後も具体的な対策を実施する際には、いち早く地域住民への情報発信や説明すること等を、心掛けて対応していく。

**問**高齢者施策の推進を  
**問**高階地域の水害対策



日本共産党 柿 田 有 一 21  
弱者に寄り添う市政へ

**問**社会的弱者や生活困窮者など困っている人たちの悩みや課題を解決するのは市の役割と考えるが、市長はこうした人たちに寄り添う考えはあるのか。

**答**市長 目指すまちの姿である「住むことに誇りを持ち、住んでよかったと思えるまち 川越」の実現には、こうした人たちを含めた市民みんなにそう感じてもらう必要

がある。

経常的な予算が年々増加する中で、行政サービスを提供するには、事業や提供方法の見直しも必要で、その際は、丁寧な検討と説明が大切である。

**問**市長の政治姿勢  
**問**小畔川周辺の諸問題



日本共産党 川 口 知 子 22  
鉄道敷の道路化調査を

**問**大東地区の交通渋滞解消のため、旧安比奈線の鉄道敷を道路にとの要望がある。課題解決のための調査を進めるべきだが市の見解を伺う。

**答**総合政策部長 大東地区の交通課題解決のためには、新たな道路を整備して国道16号へ接続することや既存道路の整備など、多角的な視野で検討する必要がある。旧安比

奈線鉄道敷は、形状や位置から道路として整備することも考えられるところであり、その整備効果を高め、大東地区の交通課題解決に寄与するものとなるよう、既存道路も含め、具体的に調査、研究を進めていきたいと考えている。

**問**非正規職員の処遇改善  
**問**旧安比奈線の活用  
**問**（仮称）西公民館建設



政 晴 会 川 口 啓 介 23  
ICTを活用した健康支援

**問**多数の住民に対し、個別指導と継続支援が可能となる、個別運動・栄養プログラムを提供し管理するシステムを導入できないか。

**答**保健医療部長 ICTを活用した健康づくり事業の中には、効果的に参加者の取り組みを「見える化」し、個別支援プログラムを提供するシステムもあると認識している。

システムの導入については、シニアを含む多くの市民が主体的に健康づくりに取り組める観点から、先進自治体の取り組み事例や国の動向を踏まえ、今後、調査研究していきたいと考えている。

**問**アクティブシニア応援  
**問**RPAで業務効率化

